

道徳授業は何をする時間でしよう？～よりよい理解のために

1 学校の「道徳」はどんな時に学ぶのでしよう？

登校から下校まで、学校生活の様々な場面で「道徳」を学ぶ機会があります。これが全ての教育活動の中で行う「道徳教育」です。言い換えれば、日常生活のいついかなる場面でも心をはぐくむことができるということです。様々な学校で行われている異年齢集団活動である「たてわり班」等は、かかわり合いの中でじっくりとやさしさをはぐくもうとしていているものです。

2 「特別の教科 道徳」 道徳授業（道徳科）ではどんな学習をするのでしよう？

週1回の道徳授業（道徳科）の役割はどんなことなのでしょう。道徳授業では、すぐに行動化する即効性を強く求めません。「○○って大事だなあ」、「きのうあんなことしちゃった。どうしよう。」、「今日勉強したことは、この前のあのことと同じだ。」ということ大切にします。例えば、「B：感謝」を扱った授業をつくる流れは・・・

- ①道徳授業（道徳科）の年間指導計画と子どもたちの実態に応じて授業を組み立てます。
- ②年間指導計画に沿って「B：感謝」の「教材」（読み物やVTR、紙芝居等）を読み込みます。採択された教科書の教材が多いのですが、文部科学省や東京都の教材集、様々なDVD資料等も計画に位置付けています。
- ③授業では、「感謝しなさい」と言うのではなく…子供たちは、教材の登場人物の心情を考えることで、その人物に自分を託し、「感謝することの大切さ」を自覚していきます。
- ④そして、教材での話し合いを自分自身の振り返りに生かしていきます。

お礼を言いそびれたなあ。

ありがたいと思わなくっちゃなあ。



たくさんの人にお世話になっているなあ。

行動するのはなかなか難しいな。

3 子どもたちはすぐに行動できるようになるのでしようか？

道徳授業（道徳科）では、すぐに、「全員が感謝の気持ちを持って行動できるようになる」ことを直接ねらってはいません。道徳授業は「要（かなめ）」であり、漢方薬のような役割をするものです。じっくりじわじわ効いてきます。即効性を強く求めず、年間35時間、6年間で200時間以上繰り返しながら扱っているのはそのためです。

やはり、全ての教育活動の中で、じっくりとはぐくもうする姿勢もとても大切になります。これが、「道徳教育」です。

4 学校以外では、どんなことができるのでしよう？

地域、家庭、学校それぞれの立場でどのようなことができるのか、皆さんで考えるきっかけとなるように東京都の全小中学校では道徳科の授業公開をして、懇談等を設ける場（道徳授業地区公開講座）が設定されています。

※通知表には記述式の記載があります。これは、**道徳授業（道徳科）**での**子どもの成長や学習状況を認め励ます評価**です。